

先ずは失敗、「東朝」のフックレビムウに「綴方徳本」
の紙分を青いたよ。か、何しろ二枚に書けと云ふ
のせから甚しく、僕らは書かうと云ふ書く餘地な
かうたが、綴方の上手にならうといふことは入學
試験をパスする要諦だ、綴方さへ巧ければ
漢徳も、麻呂史も、地理も物理も化学の試験も
パスする可能性あるしと云ふことと「度々
文ん書いて貰ひたいが何うせうか？ 凡そ
一と二視るには入學試験と法を習けるに限る。
佐治の叔父内ん、おれいつかのの跡を見ないで返した
よ。不見転しんといふことは聞いたが不見没は初めだ。
僕はが何を電報とかげらのも要かつたか、見ない
いは少々ドイよ。